

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700546		
法人名	有限会社ベルヴィ		
事業所名	グループホーム やすらぎホーム金光		
所在地	岡山県浅口市金光町地頭下400番地		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 13 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700546-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の「認知症になっても、その方らしい豊かで明るい生活」から利用者の人間性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で少人数のグループホームにしかできない一人ひとりの状況に合わせた個別ケアによって認知症の進行を緩和し、協力医療機関やかかりつけ医との連携により、小さな体調の変化にも気づき、安心して生活して頂けるよう支援しています。コロナ禍で面会制限や地域行事が中止となる中、四季折々の変化を感じて頂くため、毎月の行事やその時々の方々の皆様のご希望に応じて柔軟に対応し、また、その様子を手紙やホーム発行の新聞などで御家族と良好な関係が築けるよう取り組んでいます。創立20周年を迎え、笑顔と思いを大切に一人ひとりに寄り添えるケアを目標にしっかり達成していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前施設に長く務めた管理者が、残念ながら移動となり、介護内容に変化が起こるのではと懸念していたが、新しい施設でも以前同様に利用者に情を以てご縁を深めた。新しい利用者から「お世話になっています」と、有難い声をいただき、信頼につながる関係がさらに深まって管理者二人とも生きがいを感じる環境が築かれていた。特に、個別ケアを以て充実させていて、起床も就寝も自由に、その人らしい生活が叶うように配慮している。そして、ご飯も利用者と話をしながら無理強いないよう心配りしている。管理者もグループホームならではの家庭、家に重きを置き、それを利用者の拠り所としている。そして、利用者一人一人の個性を掴み、利用者と一緒に手作りのマスコット人形に命を吹き込むことで、リビングで見守ってくれる可愛いスタッフの一人が増員となり、利用者喜んで頂いている。そんな利用者に優しく、家族の代わりとして人生の恩返しを心に刻んでいるそんな職員さんがここにいた。理念を常に心に描くことで、利用者と一緒に楽しい生活を営める施設が築かれ、利用者が自由に暮らせる元気さど合わせて、さりげなく徐々に笑顔をはほらせていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中、人間性を尊重し一人ひとりに寄り添えるケアを行う為、基本理念をスタッフルームに貼り厳守している。	事務所の壁面に、経営理念、ユニット目標を掲示している。一人ひとりを尊重する思いから管理者は、個別ケアの実践ができるように日々の介護に取り組んでいる。半年に1回、自己評価を基に個人目標の作成をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大の為、挨拶や清掃活動など、最小限の関わりに留めている。	コロナ前は、お祭りで子ども神輿が来ていた。統括が、地域清掃に参加しているので、地域の人の繋がりができている。近隣を散歩している際には、挨拶を交わし、町内との縁を深めている。	学校、交番や消防署などの官公署にも出向き、身近な縁をさらに深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染拡大の為、年に3回ホームの新聞を発行し、他事業所や地域の方へ送付し、ホームの活動を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大の為、対面での運営推進会議が中止となり、活動報告は書面や電話で対応している。	民生委員、地区長、老人クラブ、包括が参加していて、郵送や電話にて報告している。管理者は、看取りから元気になった方がおられた過去の経験を、運営推進会議を通して、伝えていこうと取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染拡大の為、対面での運営推進会議が中止となり活動報告は書面や電話で対応している。	認定更新などの際には、両ユニット管理者が直接出向いているので、市町村とは何でも言える関係ができている。入退院の際に、担当の医者がわからないことがあり、親身になって考えることで、主治医検証ができたことがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ3ヶ月に一度研修会を行い、知識の向上に努めている。	身体拘束委員会でアンケートを聴取している。事例を基に、身体拘束にあたるのかについて検証しながら、日々の介護で身体拘束をしていないかどうかの再確認をしている。スピーチロックにも注意し、嘘になるような発言をしない、忘れないように再度フィードバックするように配慮している。	身体拘束委員会がもっと楽しくなるように創意工夫をして、自然と身につくようなことをして見てはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の研修会に参加するだけでなく、ホーム内での研修でも、虐待について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者もおられるため、社内研修にも取り入れ知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に十分に説明し理解を得ている。また、改定時には説明書類を送付し納得・了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染拡大の為、年に1回の家族会は中止となっているが、電話等で意見を求め反映させている。	お金がかかることに関しては、家族の意見を聞くように配慮している。固形物が食べれない利用者に対して、強化ドリンクを勧めることで、利用者の特徴と栄養バランスを考えての工夫を凝らした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、経営者とグループ内の各ユニットの管理者が集まり、問題の起こったユニットだけで考えるのではなく、全員でその問題について考えている。	直近の会議では、代表・統括・管理者が参加し、事業所の問題点について話し合いを行った。議事録として職員に下ろすとともに、口頭でも直接伝え、何かあればその場でも答えられるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体制を大幅に見直し、会社独自のキャリアパス制度を導入し、本社役員等と職員との面談で職員の意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年ごとに職員個々の目標を挙げ、管理者が評価し、賞与の査定としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修会に参加し、他事業所とインターネットでの情報交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ADL等の体の状態を確認する前に、まず、本人の話をしっかりと聴く事を重点に置き、信頼関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴を把握した上で、ご家族の不安な事や要望を理解しつつ、ホームでの生活を考えていく。数日後に様子を電話連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに基づきケアを行い、その時に応じたプランの変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様扱いしすぎないように、本人の状態をその時々で見極めて出来る事を一緒に考えて行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大の為、面会制限をしているが、定期的にご本人の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大で馴染みの人との関係が継続できなかったが、今後、コロナ収束後には支援できるように努めていく。	スタッフの方が休暇を取った後に出勤したら、「おねえさんの顔をみれたら嬉しい」「毎日きてね」と言われるくらい馴染みの関係となっている。朝顔やトマトの水やりを欠かさずにすることで施設内で新たな馴染みの場が形成された。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い利用者同士を隣の席にするなど、利用者同士が会話できる環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されるときにはご家族様の相談に応じ、次の施設を紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活の応じた時間や食事内容等柔軟な対応を行っている。	日頃の生活習慣を観察し、思いや意向の把握に努めている。おかずを残す利用者がいて、ミキサー食にしてご飯と混ぜたらすべて食してくれた。家族に意見を聴取し、チーズマンにしたところ食して頂けた。コップで出すと飲まないが、ペットボトルを部屋に置いたら、飲んでいたこともあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの時に生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境をこれまでのサービス利用の経過をご本人やご家族様から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表を立て、また、バイタル・顔色・立位・歩行等、その日その日で確認をし、申し送り等で全員が認識できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のスタッフ会議と適宜モニタリングを行い、入居者のケアについて話し合いプランに反映している。	介護計画は、担当職員・ケアマネを中心に、管理者や職員も交えて作成している。入居前に介護計画を作成するが、何かあればその都度見直し、適宜変更している。主治医の先生とも相談することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき工夫を職員間で共有する為、ノートを作成し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り利用者の生活の場を、常にかかわる事のできるリビング横の和室にした。最期は明け方であったが、迅速な対応ができ、ご家族様にも感謝された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会から、その季節にあった手作りの絵手紙を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、かかりつけ医を受診させてもらっているが、遠方の場合やご本人の状態により、ご家族と相談し適切な医療機関を受けられるよう支援している。	特別な事情がない限りは、以前のかかりつけ医を継続して受診していただいている。基本は、職員が受診につれて行くことで、日頃の様子をドクターに伝えやすくしている。初診や何かある場合は家族が連れて行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の情報を伝え、緊急の場合相談し、適切な受診処置を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を提出し、利用者が安心して治療できるよう支援している。また、病院受診時など日常より関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近づいている入居者のご家族と主治医とで話し合いをし、事業所での看取り方針について十分に説明を行い、同意を得ている。	ターミナルは実施し、去年は看取りを数名行った。入居時には、できること、できないことの説明をしている。看取り期に差し掛かった際には、家族・ドクター・管理者と相談をし、同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で意識向上に努めている。コロナ感染発生時対策の為、防護服着脱の訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練の実施を行っている。自然災害についても研修を行い、水害時の訓練もしている。	年2回火災訓練を昼夜想定で実施。年1回、勉強会を実施して、地震・水害の対策やハザードマップの確認を行った。備蓄は水を3日分、事務所に保管している。現在は、消費期限の見直しを検討中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しプライバシーの確保に努め、否定する言葉を使わないようにしている。	呼称は基本苗字に「さん」をつけて呼ぶが、利用者と親密になれるように、ご本人が希望する呼び方で呼ぶ場合もある。トイレの場合、扉を開ける際には、ノックを必ずしてから、扉の前で待つタイミングを合わせて介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き、自分はどうしたいのか会話の中で導くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に、希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マニキュアを希望される入居者には誕生日にプレゼントした。美容院を希望の方は送迎の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態、量を個人で変え食べやすいようにしたり、嫌いなものは除いている。利用者に野菜の皮むきやテーブル拭きなど準備を行ってもらっている。	三食ケータリングだが、味噌汁は施設で作っている。利用者の嫌いなものは提供しない方針。野菜を冷凍して使用することで、コストにも優しく時間を短縮して提供できるようにしている。するめが食べたいという利用者に対して、施設で購入し、提供したことがあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランスが悪い方には家族に連絡し栄養強化食を追加している。水分量が少ない方には飲めそうな時に飲めそうな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシが難しい方にはスポンジブラシを使用するなど、その方に合ったケアを行い口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分のペースでトイレに行かれる入居者の排泄間隔も把握し、間隔が空いている場合は声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用し、その人に合わせた言葉掛けや誘導方法を工夫している。周りに聞こえないように、トイレというワードを使わず、「右行つて、左行つて」「大事な用事があるんだよ」と言いながら誘導するようにしている。夜間のみPTトイレを使用している方も数名おられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出にくい方には、お茶にオリゴ糖を入れたり、起床時に冷たい牛乳やヨーグルトを提供し、極力自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、拒否される方は職員や時間、声掛けなどを工夫している。希望の時間帯もできる限り対応している。	週2～3回の提供。入浴を拒否される方もいるが、他の職員が言葉を掛けるとスムーズにいった事があったので、言葉を掛ける職員を誰にするのかを工夫している。浴槽に浸からない方にはシャワー浴や足浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じてリクライニングソファを使用している。薬に頼らず安心して眠れるよう日ごろから体調管理、日中の活動の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用される方の、名前・日にち・時間を本人の目の前で一緒に確認し、服薬をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みに合った楽しみを見つけ提供しており、また、会話を楽しんで頂くようにしている。ホーム周辺の散歩や買い物など気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染拡大の為、外出はできていないが、ホームの中庭でいちご栽培や干し柿などをつくり、収穫に出ている。	近隣の散歩や買い物に出掛ける。中庭やウッドデッキに行くことで、利用者は落ち着き、フラストレーションが解消されている。初詣や花見も行った。受診時に、ドライブがてら思い出の場所や桜を見て帰ってきたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでのお金の所持は原則禁止だが、あらかじめ各家族様と物品の購入について話し合いをし、本人が欲しいとの要望があった時の対応を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をしたいと要望があれば、職員が電話の仲介をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を取り入れた壁紙だけでなく、入居者作成した物を展示している。	リビングでは、体操や浅口市のクイズ、カラオケを楽しんでいる利用者の姿を目の当たりにした。午後のティータイムでは、隣の人とおしゃべりを楽しんでいた。季節を感じて頂けるように、利用者で作成した貼り絵を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士、同じテーブルに配置したり、一人で過ごしたい入居者には一人机を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅使い慣れた物を設置したり、ご家族の希望で使用されていたマットレスを使っていただいている。	エアコン、カーテン、ベット、タンスが備え付け。壁面には、行事の写真やお気に入りの家族のデジタル写真を飾って、思いにふけている。窓を開けると、春には満開の桜が見え、爽やかな風が吹き抜ける居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分からない入居者の為、大きな名前を書いたプレートを居室前に貼っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700546
法人名	有限会社ベルヴィ
事業所名	グループホーム やすらぎホーム金光
所在地	岡山県浅口市金光町地頭下400番地
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 13 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700546-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 9 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の「認知症になっても、その方らしい豊かで明るい生活」から利用者の人間性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で少人数のグループホームにしかできない一人ひとりの状況に合わせた個別ケアによって認知症の進行を緩和し、協力医療機関やかかりつけ医との連携により、小さな体調の変化にも気づき、安心して生活して頂けるよう支援しています。コロナ禍で面会制限や地域行事が中止となる中、四季折々の変化を感じて頂くため、毎月の行事やその時々の方々の皆様のご希望に応じて柔軟に対応し、また、その様子を手紙やホーム発行の新聞などで御家族と良好な関係が築けるよう取り組んでいます。創立20周年を迎え、笑顔と思いを大切に一人ひとりに寄り添えるケアを目標にしっかり達成していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前施設に長く務めた管理者が、残念ながら移動となり、介護内容に変化が起こるのではと懸念していたが、新しい施設でも以前同様に利用者に情を以てご縁を深めた。新しい利用者から「お世話になっています」と、有難い声をいただき、信頼につながる関係がさらに深まって管理者二人とも生きがいを感じる環境が築かれていた。特に、個別ケアを以て充実させていて、起床も就寝も自由に、その人らしい生活が叶うように配慮している。そして、ご飯も利用者と話をしながら無理強いないよう心配りしている。管理者もグループホームならではの家庭、家に重きを置き、それを利用者の拠り所としている。そして、利用者一人一人の個性を掴み、利用者と一緒に手作りのマスコット人形に命を吹き込むことで、リビングで見守ってくれる可愛いスタッフの一人が増員となり、利用者喜んで頂いている。そんな利用者に優しく、家族の代わりとして人生の恩返しを心に刻んでいるそんな職員さんがここにいた。理念を常に心に描くことで、利用者と一緒に楽しい生活を営める施設が築かれ、利用者が自由に暮らせる元気で合わせて、さりげなく徐々に笑顔をはほらせていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中、人間性を尊重し一人ひとりに寄り添えるケアを行う為、基本理念をスタッフルームに貼り厳守している。	事務所の壁面に、経営理念、ユニット目標を掲示している。一人ひとりを尊重する思いから管理者は、個別ケアの実践ができるように日々の介護に取り組んでいる。半年に1回、自己評価を基に個人目標の作成をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大の為、挨拶や清掃活動など、最小限の関わりに留めている。	コロナ前は、お祭りで子ども神輿が来ていた。統括が、地域清掃に参加しているので、地域の人の繋がりができている。近隣を散歩している際には、挨拶を交わし、町内との縁を深めている。	学校、交番や消防署などの官公署にも出向き、身近な縁をさらに深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染拡大の為、年に3回ホームの新聞を発行し、他事業所や地域の方へ送付し、ホームの活動を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大の為、対面での運営推進会議が中止となり、活動報告は書面や電話で対応している。	民生委員、地区長、老人クラブ、包括が参加していて、郵送や電話にて報告している。管理者は、看取りから元気になった方がおられた過去の経験を、運営推進会議を通して、伝えていこうと取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染拡大の為、対面での運営推進会議が中止となり活動報告は書面や電話で対応している。	認定更新などの際には、両ユニット管理者が直接出向いているので、市町村とは何でも言える関係ができている。入退院の際に、担当の医者がわからないことがあり、親身になって考えることで、主治医検証ができたことがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ3ヶ月に一度研修会を行い、知識の向上に努めている。	身体拘束委員会でアンケートを聴取している。事例を基に、身体拘束にあたるのかについて検証しながら、日々の介護で身体拘束をしていないかどうかの再確認をしている。スピーチロックにも注意し、嘘になるような発言をしない、忘れないように再度フィードバックするように配慮している。	身体拘束委員会がもっと楽しくなるように創意工夫をして、自然と身につくようなことをしてみてもいいのではないでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の研修会に参加するだけでなく、ホーム内での研修でも、虐待について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者もおられるため、社内研修にも取り入れ知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に十分に説明し理解を得ている。また、改定時には説明書類を送付し納得・了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染拡大の為、年に1回の家族会は中止となっているが、電話等で意見を求め反映させている。	お金がかかることに関しては、家族の意見を聞くように配慮している。固形物が食べれない利用者に対して、強化ドリンクを勧めることで、利用者の特徴と栄養バランスを考えての工夫を凝らした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、経営者とグループ内の各ユニットの管理者が集まり、問題の起こったユニットだけで考えるのではなく、全員でその問題について考えている。	直近の会議では、代表・統括・管理者が参加し、事業所の問題点について話し合いを行った。議事録として職員に下ろすとともに、口頭でも直接伝え、何かあればその場でも答えられるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体制を大幅に見直し、会社独自のキャリアパス制度を導入し、本社役員等と職員との面談で職員の意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年ごとに職員個々の目標を挙げ、管理者が評価し、賞与の査定としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修会に参加し、他事業所とインターネットでの情報交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ADL等の体の状態を確認する前に、まず、本人の話をしっかりと聴く事を重点に置き、信頼関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴を把握した上で、ご家族の不安な事や要望を理解しつつ、ホームでの生活を考えていく。数日後に様子を電話連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに基づきケアを行い、その時に応じたプランの変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様扱いしすぎないように、本人の状態をその時々で見極めて出来る事を一緒に考えて行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大の為、面会制限をしているが、定期的にご本人の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大で馴染みの人との関係が継続できなかったが、今後、コロナ収束後には支援できるように努めていく。	スタッフの方が休暇を取った後に出勤したら、「おねえさんの顔をみれたら嬉しい」「毎日きてね」と言われるくらい馴染みの関係となっている。朝顔やトマトの水やりを欠かさずにすることで施設内で新たな馴染みの場が形成された。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い利用者同士を隣の席にするなど、利用者同士が会話できる環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されるときにはご家族様の相談に応じ、次の施設を紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活の応じた時間や食事内容等柔軟な対応を行っている。	日頃の生活習慣を観察し、思いや意向の把握に努めている。おかずを残す利用者がいて、ミキサー食にしてご飯と混ぜたらすべて食してくれた。家族に意見を聴取し、チーズマンにしたところ食して頂けた。コップで出すと飲まないが、ペットボトルを部屋に置いたら、飲んでいたこともあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの時に生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境をこれまでのサービス利用の経過をご本人やご家族様から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表を立て、また、バイタル・顔色・立位・歩行等、その日その日で確認をし、申し送り等で全員が認識できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のスタッフ会議と適宜モニタリングを行い、入居者のケアについて話し合いプランに反映している。	介護計画は、担当職員・ケアマネを中心に、管理者や職員も交えて作成している。入居前に介護計画を作成するが、何かあればその都度見直し、適宜変更している。主治医の先生とも相談することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき工夫を職員間で共有する為、ノートを作成し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り利用者の生活の場を、常にかかわる事のできるリビング横の和室にした。最期は明け方であったが、迅速な対応ができ、ご家族様にも感謝された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会から、その季節にあった手作りの絵手紙を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、かかりつけ医を受診させてもらっているが、遠方の場合やご本人の状態により、ご家族と相談し適切な医療機関を受けられるよう支援している。	特別な事情がない限りは、以前のかかりつけ医を継続して受診していただいている。基本は、職員が受診につれて行くことで、日頃の様子をドクターに伝えやすくしている。初診や何かある場合は家族が連れて行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の情報を伝え、緊急の場合相談し、適切な受診処置を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を提出し、利用者が安心して治療できるよう支援している。また、病院受診時など日常より関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近づいている入居者のご家族と主治医とで話し合いをし、事業所での看取り方針について十分に説明を行い、同意を得ている。	ターミナルは実施し、去年は看取りを数名行った。入居時には、できること、できないことの説明をしている。看取り期に差し掛かった際には、家族・ドクター・管理者と相談をし、同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で意識向上に努めている。コロナ感染発生時対策の為、防護服着脱の訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練の実施を行っている。自然災害についても研修を行い、水害時の訓練もしている。	年2回火災訓練を昼夜想定で実施。年1回、勉強会を実施して、地震・水害の対策やハザードマップの確認を行った。備蓄は水を3日分、事務所に保管している。現在は、消費期限の見直しを検討中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しプライバシーの確保に努め、否定する言葉を使わないようにしている。	呼称は基本苗字に「さん」をつけて呼ぶが、利用者と親密になれるように、ご本人が希望する呼び方で呼ぶ場合もある。トイレの場合、扉を開ける際には、ノックを必ずしてから、扉の前で待つタイミングを合わせて介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き、自分はどうしたいのか会話の中で導くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に、希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マニキュアを希望される入居者には誕生日にプレゼントした。美容院を希望の方は送迎の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態、量を個人で変え食べやすいようにしたり、嫌いなものは除いている。利用者に野菜の皮むきやテーブル拭きなど準備を行ってもらっている。	三食ケータリングだが、味噌汁は施設で作っている。利用者の嫌いなものは提供しない方針。野菜を冷凍して使用することで、コストにも優しく時間を短縮して提供できるようにしている。するめが食べたいという利用者に対して、施設で購入し、提供したことがあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランスが悪い方には家族に連絡し栄養強化食を追加している。水分量が少ない方には飲めそうな時に飲めそうな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシが難しい方にはスポンジブラシを使用するなど、その方に合ったケアを行い口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分のペースでトイレに行かれる入居者の排泄間隔も把握し、間隔が空いている場合は声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用し、その人に合わせた言葉掛けや誘導方法を工夫している。周りに聞こえないように、トイレというワードを使わず、「右行つて、左行つて」「大事な用事があるんだよ」と言いながら誘導するようにしている。夜間のみPTトイレを使用している方も数名おられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出にくい方には、お茶にオリゴ糖を入れたり、起床時に冷たい牛乳やヨーグルトを提供し、極力自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、拒否される方は職員や時間、声掛けなどを工夫している。希望の時間帯もできる限り対応している。	週2～3回の提供。入浴を拒否される方もいるが、他の職員が言葉を掛けるとスムーズにいった事があったので、言葉を掛ける職員を誰にするのかを工夫している。浴槽に浸からない方にはシャワー浴や足浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じてリクライニングソファを使用している。薬に頼らず安心して眠れるよう日ごろから体調管理、日中の活動の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用される方の、名前・日にち・時間を本人の目の前で一緒に確認し、服薬をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みに合った楽しみを見つけ提供しており、また、会話を楽しんで頂くようにしている。ホーム周辺の散歩や買い物など気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染拡大の為、外出はできていないが、ホームの中庭でいちご栽培や干し柿などをつくり、収穫に出ている。	近隣の散歩や買い物に出掛ける。中庭やウッドデッキに行くことで、利用者は落ち着き、フラストレーションが解消されている。初詣や花見も行った。受診時に、ドライブがてら思い出の場所や桜を見て帰ってきたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでのお金の所持は原則禁止だが、あらかじめ各家族様と物品の購入について話し合いをし、本人が欲しいとの要望があった時の対応を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をしたいと要望があれば、職員が電話の仲介をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を取り入れた壁紙だけでなく、入居者作成した物を展示している。	リビングでは、体操や浅口市のクイズ、カラオケを楽しんでいる利用者の姿を目の当たりにした。午後のティータイムでは、隣の人とおしゃべりを楽しんでいた。季節を感じて頂けるように、利用者で作成した貼り絵を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士、同じテーブルに配置したり、一人で過ごしたい入居者には一人机を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅使い慣れた物を設置したり、ご家族の希望で使用されていたマットレスを使っていたりしている。	エアコン、カーテン、ベット、タンスが備え付け。壁面には、行事の写真やお気に入りの家族のデジタル写真を飾って、思いにふけている。窓を開けると、春には満開の桜が見え、爽やかな風が吹き抜ける居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分からない入居者の為、大きな名前を書いたプレートを居室前に貼っている。		